

今年の夏の暑さは大変厳しく、熱中症の危険性が極めて高いとされる「熱中症警戒アラート」が連日発令されました。また、新型コロナウイルスの感染状況も、全国で爆発的に拡大しており、今回「第7波」と呼ばれる感染状況では、本校においてもこれまでにない感染の広がりが、皆さんの周りでも確認されています。警戒すべきウイルスは見えませんが、これまで以上に緊張感を持って、感染回避行動を徹底し、授業、大切な学校行事、部活動、そして3年生は進路実現に向けた受験への備えなど、皆さん自身の様々な活動に影響が出ないように注意深い行動をしましょう。

まだまだ厳しい残暑の日が続きますが、今年の松山北高校生の夏を振り返りたいと思います。まず、うれしい大きなニュースからご紹介します。先日の愛媛新聞にも掲載されましたが、305ホームルームの渡辺将斗（まさと）さんが、車いすバスケットボールの男子U23（23歳以下）世界選手権大会の日本代表に選ばれ派遣されることになりました。大会は、4年に一度開催され、今回はアメリカやスペインなど12か国が参加して、9月8日～16日までタイのプーケットで行われます。渡辺さんには自分らしさを前面に出して、いいパフォーマンスを発揮し、代表チームに貢献する姿を期待しています。

次に、地元四国で開催されたインターハイに出場した卓球部、ハンドボール部、陸上競技部、水泳部、柔道部、剣道部の55名の選手の皆さん、全国高等学校総合文化祭の舞台上で発表した「吟詠剣詩舞部」の皆さん、高校生最高の舞台である全国大会のステージで、特に3年生は、部活動としては集大成となる夏を、結果はどうかあれ、自分なりに受け入れ、応援していただいた方々への感謝の思いをもって、区切りとして、高校生活のまとめに活かしてください。

次に、地元開催のインターハイならではの活動として、本校からは、県内で最も多くの生徒の皆さんが高校生活動に参加し、スポーツを支える、応援する立場で積極的に関わってくれました。また、県内で開催された各競技会場の補助員としても多くの皆さんが様々な役割を担い、大会がスムーズに運営できるよう汗を流してくれたことと思います。愛媛県を訪れる選手や大会関係者の皆さんに、お接待の心で温かくお迎えし、大会運営に尽くしてくれた経験は、今年の夏の記憶として強く残るとともに、人としても成長につながる活動であったと信じています。インターハイに出場した選手と同じ空間で、同じ高校生としての目線で活動できたことは、地元開催、また今年高校生として過ごした世代でしか味わえない貴重な経験として、記憶に留めてほしいと願っています。大会を支えてくれた生徒の皆さん、お疲れさまでした。

さらに、高校生活動のリーダーである306ホームルームの仙波心さんは、秋篠宮御夫妻に直接対面で、愛媛県の高校生活動を御紹介し、質問を受けるといふ何事にも代え難い経験をしました。あの時の時間を一生の宝物として、心の財産にして、更なる人間力の成長に期待しています。

もう一つ、8月5日に生徒会が主体となり、150名の生徒の皆さんが参加した、愛媛県護国神社にある愛媛県立松山城北高等女学校「城北高女」の生徒22名が、昭和20年8月5日に学徒動員先の今治で殉職したことを受け、平和を願って建立された「殉職女子学徒追憶之碑」を清掃したボランティア活動を紹介します。命日に献花や清掃のため、お集まりになった当時の御学友の皆さんは、後輩である松山北高校の皆さんの清掃活動に大変感激され、皆さんを見て、77年前に14歳で亡くなった友達に会えたみたいだと、お話しされる方もいらっしゃいました。参加された6名の中で、最もご高齢の重信トシ子さんという女性は、当時、工場の機械で大けがをして松山に帰されたため、偶然、難を逃れたとお話ししていただいた方です。後日わかったのですが、私の知り合いのお母さまで、日本女子テニス連盟愛媛県支部の「名誉顧問」だそうです。現在も時にテニスコートでプレーをされているとのことでした。また来年もお互いが元気な姿で再会できるよう、この活動の継続を願います。

終わりに、2学期は、最初にも話しましたが、勉強に加え、多くの学校行事や、特に3年生は進路目標の実現に向かって、大切な時間を迎えることとなります。松山北高校生の先輩方と同じように、どちらも両立してくれることを期待しています。これから本格的に動き始める体育大会などで、立派なリーダーシップを発揮してください。充実の2学期となるよう、松山北高校生、全員で頑張りましょう